

【全体概要】

岐阜県中山間農業研究所で育成されたモモ新品种「飛驒おとめ」は、飛驒地域の旧盆前の高需要期の供給量不足を解消すべく育成された。導入に向け品種間の労力競合が課題であるが、除袋作業の省力化を図ってモモの安定供給体制を確立するとともに、市場や販売店との連携を強化し産地ブランドとして育成する。

新品种・新技術等の概要

＜「飛驒おとめ」の特徴＞

- 平成25年に品種登録。
- 8月中下旬に収穫でき、県内主要品種の端境期を埋めることができる。
- 大玉で玉揃いがよく、着色も良好で、果実の外観が非常に優れる。
- 果実糖度が高く、食味良好。
- 核割れ果、ミツ症果、生理落果などの障害果の発生が少ない。



「飛驒おとめ」

主な取組内容

【品種特性の把握】

- ・標高差による生育特性把握

【適応性実証試験】

- ・一重袋及び反射シートによる作業省力化と品質向上の実証

【市場調査】

- ・市場関係者との情報交換会（中京市場）

【先進地視察】

- ・岡山県及び福島県の産地調査

【産地交流会】

- ・市場関係者を招き、生産者との交流会

【品種PR活動】

- ・地元販売店での試食PR会開催

【栽培マニュアルの作成】

- ・生産者に配布

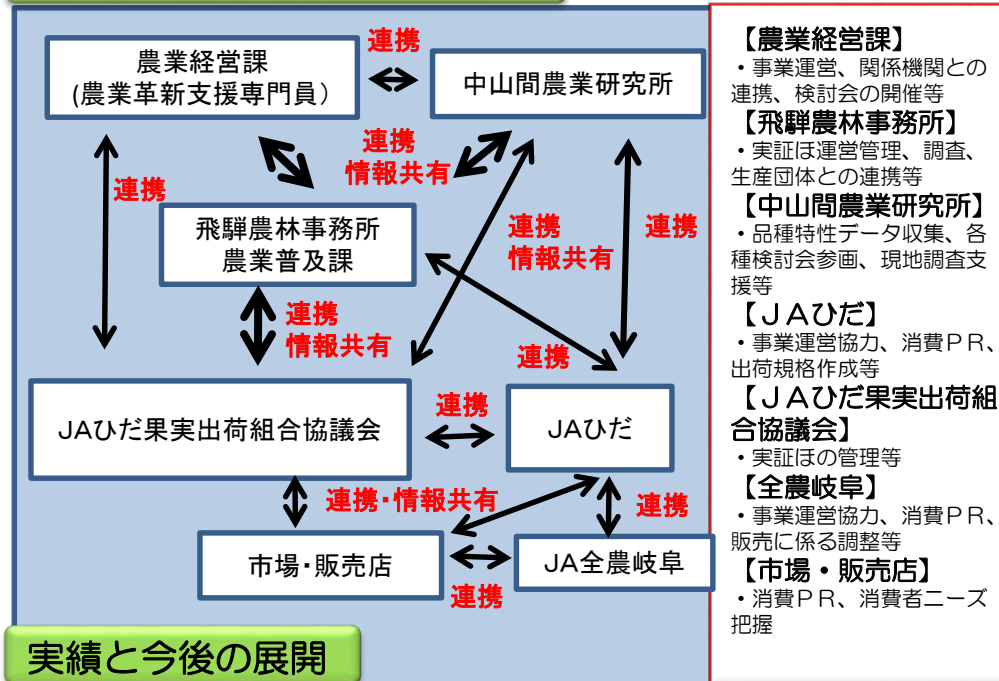


試食PR会



栽培マニュアル

コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

【実績】

- ・生育特性把握、実証試験結果及び生産者との意見交換を基に「飛驒おとめ栽培マニュアル」を作成し、生産者に配布した。
※「飛驒おとめ」栽培面積及び出荷量
【H28】1.2ha、1.1t → 【H30】2.9ha、4.3t
- ・販促資材の作成及び試食PR会により、地元消費者の「飛驒おとめ」の認知度は24%と向上した。

【今後の展開】

- ・生産者、県、市、全農、JAで「飛驒地域果樹産地協議会」が設立され、モモを含めた果樹産地構造改革計画を策定し、推進していく。